

---

# 令和6年度 事業計画



社会福祉法人 **きらめき** 会  
KIRAMEKIKAI

# 法人理念

笑顔

>>

地域への笑顔

利用者様への笑顔

ご家族への笑顔

自分への笑顔

すべての人が笑顔で過ごせる施設を目指して。

きらめき会の目指すビジョン

地域を笑顔にする。

地域に根付いた、  
地域に愛される施設を作り  
地域を笑顔にする。

# きらめき会の行動指針

## 3つの指針。

### 1 基本に忠実であること

福祉があるべき基本的な姿勢に忠実であり、本質を見失わずに邁進すること。

### 2 積極的に物事を考えること

積極性を持ち、より質の高い介護サービスの提供に尽くすこと。

### 3 心のこもった行動をすること

ご入居者様・ご家族さま・地域の皆様・共に働く仲間に愛情を持ち、心をこめて全ての業務に従事すること。

---

社会福祉法人きらめき会  
法人本部

---

# 2024年度事業方針

## FY2024 PLAN



## 法人本部 Business HQ



### 1. 人財リソース強化を中心としたHR戦略の策定

#### ① 次世代管理職人財の育成

各施設から人財を広く選抜。育成計画作成、アセスメント、経営人財育成研修への参加、経営ポジションへのタフアサイメントを通じた集中的な育成を実施する。

#### ② 人財獲得・育成

採用の強化に取り組んでいく。広報活動との連動による戦略的なコーポレートブランディングの展開やオンラインを活用した採用手法の多様化等により、人財マーケットにおけるきらめき会のイメージ向上を図り、優秀な人財の獲得につなげていく。  
また、スタッフ自身が自らのキャリアを描くことができるよう、業務目標やその達成度に関する面談に加えて、キャリアデザインに関する面談を行う対話制度の拡充も図っていく。

#### ③ 従業員エンゲージメント

エンゲージメントサーベイを実施し、面談では把握しきれない職場レベルの課題を把握し、改善に向けた取り組みにつなげていく。管理職とスタッフが活発に対話することで職場環境の向上に取り組み、職場コミュニケーションの強化につなげていく。

### 2. 他法人・地域との連携強化、事務効率化とバックオフィスの改善

#### ① 他法人と連携した人財育成

他法人と連携して人財育成プログラムを実施していくほか、人財交流を深めることで、職員が客観的な視点を持ち、職場の改善に取り組みやすい環境を整えていく。

#### ② 地域との連携強化

近隣の保育園や幼稚園、小学校との連携、こども食堂の実施、高齢者ふれあい事業、喫茶いこいの実施など、地域の方々に開かれた場所づくりの提供を行い、地域に根付いた施設を目指す。

#### ③ 人事・労務・給与のデジタル化の推進

外部委託をしている労務管理・給与の内製化を図る。職員の労務手続きや勤怠申請等の電子化を進め、バックオフィスの業務効率化をすすめます。また、職員が主体的にシステム上で各種の手続きを進められるようにして事務職員の業務負担を減らします。

### 3. 横浜旭いこいの里の開設準備と新規事業の検討

#### ① 開設準備室の設置

2024年8月頃から開設準備室を設置し、各所との連絡調整や開設に向けた準備を行います。また、SNSを強化し、新規施設のPRを実施する。

#### ② 採用計画の立案

採用目標・ターゲットに合わせた採用計画を作成する。コーポレートサイト、会社紹介動画、会社案内パンフレットなど、きらめき会の魅力が伝わる採用ツールを制作する。また、説明会やインターンシップ、新規施設のPR企画などを実施し、施設の開設に必要な人材を計画的に採用します。

#### ③ ベトナムハノイ市で老人ホームを開設

現地の市場調査、情報収集やネットワーク構築する中で、日本の介護に対する関心と期待を感じ、ベトナムの事業に関して、大きなビジネスチャンスがあると判断。ベトナムの企業であるハマチャー（HAMTRA）と共同でベトナムハノイ市に老人ホームの開設を目指す。

---

小規模多機能型居宅介護  
横浜いこいの里

---

01  
横浜

いこいの里

Yokohama  
Ikoi No Sato

名称

小規模多機能型居宅介護  
横浜いこいの里

住所

神奈川県横浜市泉区中田西4-2-43-2

開所

平成22年4月1日

事業  
内容

小規模多機能型居宅介護  
介護予防小規模多機能型居宅介護  
登録定員：29名（内通い：17名 宿泊：8名）



## 管理者コメント

昨年度5月8日より、コロナウイルス感染症の位置づけがこれまでの2類相当から5類感染症になり、横浜いこいの里としての取り組みを職員の意識の向上が緩まないように感染予防対策内部研修等を怠らなかつた。コロナ陽性者が出たこともあったが拡大する事はなかつた。これからも感染予防対策は気を抜くことなく職員の認識確認の続行を心掛けていく。

採用面に関して、特定技能のインドネシアからの男性職員を採用。20代前半の男性1名、女性1名の介護職を採用。ドライバー1名の退職もあったが、直ぐに採用ができ、計4名の入職があり現在に至っている事もあり夜勤勤務、残業勤務等の軽減に繋なげていけた。変わらず離職率が少なく職員の定着率が安定している。

小規模多機能の利点でもある、通い・訪問・泊りの対応が顔なじみの職員で出来ていることは今現在利用して下さっている利用者様、ご家族様の信頼、安心感につながり、横浜いこいの里をご利用して頂く為のアピールポイントの一つでもある。令和6年度介護保険介護改定に伴い、認知症、口腔、栄養の悪化防止に心掛け重度防止に向けた在宅医療と介護との連携、良質な介護サービスの効率的提供に向け、職員の資質、技能、実務能力の向上を行っていく。今後も職員の定着を図るため、働きやすい職場、環境作りを心掛けていく。

課題としては、地域への認知度が低い。地域包括支援センターへの活用、町内会への行事参加を積極的に行っていく。施設を有効活用して頂けるよう開放を実施し、地域交流を深める行動、努力をしていく。利用者様が生きがい・楽しみを見つけることができるようサポートし、職員が横浜いこいの里で働いて良かったと言ってもらえるような施設づくりを目指す。

# 2024年度事業方針

## FY2024 PLAN

横浜いこいの里  
Yokohama ikoi no Sato

### 目 標

- ◇ 登録者数を年間平均で27名を目標。通い・訪問の利用者様が増えて頂けるよう更に営業活動を強化する。  
利用者様の一人一人に寄り添い利用者様が生きがいをもって自分らしく暮らして行けるよう、利用者様とご家族に望まれ、希望される支援の提供を行っていく。  
横浜いこいの里を利用して頂き楽しみ・喜び・生きがいを感じて頂けるよう年間の行事及び日々のレクリエーションの改革の実施。更に地域交流を深め地域の方々と連携し地域密着の施設を目指して地域の活性化に貢献していく。

### 取 り 組 み

- ◎営業活動後の後追い営業の強化（電話にてのフォローアップの継続等）きらめき通信の配布の継続。
- ◎ポスティングの再開。送迎車のリアウインドウに横浜いこいの里のPRの貼り紙をする。
- ◎SNSによる施設のPRの続行
- ◎月の年間行事はレクリエーション系ではなく介護に携わる職員が企画、計画、準備、当日の開催まで担当する
- ◎ボランティア団体の活用を積極的にしていく。
- ◎泉区の看護、介護小規模多機能連絡会で提案があがった介護職員の交換の実施に向けて積極的に参加、受け入れをしていく。
- ◎職員のミーティング実施、内部研修実施されているが、外部研修、資格支援の充実を図る。
- ◎法人内の交流、研修を確立していく。
- ◎職員の1on1の面談の定期的な実施。

---

特別養護老人ホーム  
八潮いこいの里

---

02

# 八潮 いこいの里

Yashio  
Ikoi No Sato

名称

特別養護老人ホーム  
八潮いこいの里

住所

埼玉県八潮市垢526-1

開所

平成30年4月1日

事業  
内容

特別養護老人ホーム事業  
定員：ユニット90床 従来30床 計120床  
短期入所生活介護事業（空床利用）

## 施設長コメント

令和5年度はこれまでの施設の実態を踏まえ、チェンジ・チャレンジを目標に施設運営を行った。

具体的には施設が目指す方向性を理念、目標作りから始め、最終的な目標、入居者様の個別ケアを提示、実践を開始した。教育体制の確立のため、人材育成課の復活、選りすぐりの介護職員を集め、新規入職職員を教育する教育ユニットを設立した。施設内の基本的な介護技術、介護技術以外の業務も統一が出来るよう、取り組んだ。

地域の保育園、小学校、フレイル状態の高齢者との交流、社会貢献と八潮いこいの里を知って頂くため、共同でのイベントを開催し、令和6年度の交流の継続、拡大に向けのきっかけ作りをした。

稼働率は、年間通すと95%以上を確保したが、入院が多い、退居後次の入居まで時間がかかってしまうことが多かった。空床期間を減らし、入居がスムーズに出来るよう、入居・ショートステイの入口専門の窓口を作った。定期的な営業を含め、計画をしている。今後、近隣に新設の特養が出来ることも含め、入居者様、ご家族様、近隣の居宅介護支援事業所、病院だけではなく、職員にとっても、施設として選んで頂くことが出来るよう、差別化した施設運営が求められる。

引き続き、令和5年度から継続した体制で1年間運営していく。

# 2024年度事業方針

## FY2024 PLAN

八潮いこいの里  
Yashio ikoi no Sato

1

### 稼働率の安定

- 年間を通して全体の稼働率98%の維持を目指す
- 入院時の空床ショートステイ利用者の確保
- 入居者とショート利用者確保のため、月々の営業計画立案と実行

2

### 加算の取得

- ユニットにおける日常生活継続支援加算の早期算定
- 自立支援促進加算算定に向けた体制づくり
- 生産性向上推進体制加算算定に向け、ICT機器の導入。

3

### 教育体制の確立

- 教育ユニットから八潮いこいの里共通の手順の確立、介護技術の確立
- 中堅職員の介護技術向上に向けた研修、フォローについて
- 新入職職員のメンタル面のフォロー、海外にルーツのある職員の言語・生活面フォロー
- リーダー、主任、副施設長、次期施設長候補の育成
- 外国籍、外国にルーツのある職員の日本語理解、双方の文化理解

4

### 地域に根ざした施設作り

- 近隣の保育園・小学校との交流を計画立て本格的に実施
- 高齢者ふれあいの家事業「かふえいこい」本格稼働に向け準備
- 地域の方々のボランティアの受入れ準備
- 地域の活動に参加し、地域に根ざした、いこいの里のアピール

---

特別養護老人ホーム  
若葉いこいの里

---

03  
若葉

いこいの里

Wakaba  
Ikoi No Sato



名称

特別養護老人ホーム  
若葉いこいの里

住所

千葉県千葉市若葉区若松町531-156

開所

令和3年4月1日

事業  
内容

特別養護老人ホーム事業 定員：80床（ユニット）  
短期入所生活介護事業 定員：20床

合計：100床



## 施設長コメント

昨年度は、入院や退所が続いた月もあったが、相談員の営業取り組みユニットの協力体制の向上によりスムーズに入所に繋げる事ができた。また、入院時の空床利用も居宅や家族との調整を行い利用に繋げる事ができたが、退院時の状態によっては受入れが不可能な事案もあり施設として受け入れる為の対策が課題となった。

クラスターも8月、12月、発生してしまい、5類となった事で感染対策の緩和が影響した。施設としても1人1人の感染対策の意識低下、チームとしての連帯感も薄くなってしまったと感じる1年であった。再度クラスターが発生してしまった場合に備えて、反省点を踏まえながら委員会や研修を通して、意識付けが出来るようにしたい。

スタッフに関しては相変わらず確保と定着が難しい状況となっている。特に、資格が必要である看護師の確保は、困難を極めている。ネットや紙媒体などに掲載しても、ほぼ効果が得られず、派遣看護師や紹介会社に頼るしかない状況。職員不足についてはコミュニケーション不足やケアの方針、協力・連携不足から疲弊し離職する原因の一つでもあると考える。それに伴い指導する気持ちや余裕がない現状である中、協力ユニットの協力体制を構築できれば少ない人員でも業務がスムーズに出来る等介護士の考え方やケアの質を上げていくことが最優先であると考えている。今後も倫理や介護観、ユニット毎のディスカッションを毎月行うことで、情報共有し改善に繋がれるように指導、実践していく。

職員の働きやすさを追求し、長く働いてもらえる環境整備も取り組みつつ、今年度については、上記の内容で進めて参ります。

# 2024年度事業方針

## FY2024 PLAN

若葉いこいの里  
Wakaba ikoi no Sato

1

### 稼働率96%以上を維持

- 事前に準備できる事を行い、スムーズな入所・空床利用を実施する。
- 入居者の状況把握に努め観察力・判断力を身につけ異常時の早期発見・対応ができる体制強化。
- ユニットから専門職、専門職からユニットへ情報を速やかに伝えられる体制を整える。
- 営業の意識を高める。病院・居宅・老健等に営業周りをを行い、顔見知りの関係性を築いていく。

2

### 生産性の向上への取り組み

- 業務の見直しを行いムリ・ムダ・ムラをなくし時間に余裕を持った働き方を実践する
- 協力ユニット間の協力体制の強化していく
- 職員のスキル向上に向けた研修をおこなう

3

### 国際的な交流と教育支援

- 外国人スタッフのユニットの構築と技術や記録の指導をおこなう
- 文化や習慣の理解を深める為日本人と外国人スタッフが交流できるようなイベントを開催する

4

### 地域との交流促進

- 近隣保育園の園庭代わりに施設の地域交流スペースの提供
- 譲渡会やバザー等の開催
- 地域の方も参加できるような施設イベントの実施や地域ボランティアなどの受け入れを行う